

3年ぶり

「御幸（御輿行幸）」開催

「御幸（御輿行幸）」が、5月24日に大山寺で行われました。

御幸（御輿行幸）は平安時代に始まったとされる大山寺の伝統行事です。1938年に一度中断しましたが、1987年に地元住民の熱意によつて復活しました。もともとは毎年開催ですが、御輿の担ぎ手不足により、2011年から開催は3年に一度となりました。

博労座で大山寺僧侶が法要を行った後、法灯や僧兵、錦旗、奉行、猿



田彦、鉄砲持ちたちの先導で、烏帽子に白装束の男衆らが御輿を担ぎました。今回は御幸実行委員会の呼びかけで御輿を2基出すことができました。

また、かわいらしい衣装を身につけた童子たちも大山寺参道を一緒に練り歩き、時代絵巻に華を添えました。

先祖代々続く小谷さんのおもてなし

大山寺春の例大祭に合わせて5月24日に中山・一息坂峠では、大山への参拝者を接待する小谷節子さん（東積）の姿がありました。

この接待は、江戸中期に北栄町瀬戸の大庄屋 武信佐五右衛門が、大山参りの参拝者をねぎらおうと小谷家に依頼したことから始まり、今に続いています。節子さんが14代目。今年も赤飯、タケノコ、フキ、ミョウガの煮物、お茶を準備し、立ち寄る人々に振舞いました。

そして今回、歩いて一息坂峠を目指すグループがいました。地域自主組織「きばらいや上中山」の有志5

夏山開き祭で「山の日記念全国大会」伝達式も!

夏山シーズン到来を告げる、第71回大山夏山開き祭が6月3・4日に行われました。



▲博労座特設ステージでお披露目

3日の前夜祭では、大神山神社奥宮で登山者の安全を祈願する神事後、たいまつ行列がスタート。約2千本のたいまつが連なり、大神山神社奥宮から博労座駐車場まで炎の河をつくりました。

また、神事に先立ち、来年8月10・11日の両日、大山を中心に開催される第3回「山の日記念全国大会」開催の伝達式が行われました。

4日は大山山頂で山頂祭神事が行われ、関係者や登山客ら約600人が参加しました。

両日とも好天に恵まれて大勢のお客さままでにぎわい、博労座駐車場の特設ステージではBSSラジオの公開放送や地元小学生、婦人会が楽器演奏、踊りを披露して夏山開き祭を盛り上げました。

●山の日記念全国大会●

平成28年より祝日化された「山の日記念」。山への関心と、山に親しむ機会を提供し、山の恩恵への気づきを促すことを目的に開催されています。第1回大会（2016年）は長野県松本市、第2回（2017年）は栃木県那須町で開催。

